

# 平成26年度大垣市教育振興基本方針評価委員会第1回会議議事録

- 1 **とき** 平成26年7月14日（月）13:00～15:30
- 2 **ところ** 大垣市役所北庁舎北館1階 教育委員会室
- 3 **出席者** 平野順一委員長、松岡博副委員長、高橋美和子委員、田中良幸委員、原美智子委員、馬淵茂男委員、矢橋和江委員、渡邊利春委員、山本教育長、坂事務局長、加藤庶務課長、清水学校教育課長、加藤社会教育スポーツ課長、平野文化振興課長、中井文化振興課文化財専門官、高木教育総合研究所長、渋谷南部北部学校給食センター所長、川元図書館長、河添上石津地域教育事務所長、松岡墨俣地域教育事務所長、小林まちづくり推進課長、高木市民活動推進課長、林庶務課主幹、土川庶務課主査  
傍聴者：1人

## 4 議 題

- (1) 大垣市教育振興基本方針評価委員会設置要綱の一部改正について
- (2) 平成25年度大垣市教育振興基本方針の評価について
- (3) 平成25年度大垣市教育委員会の活動状況について
- (4) 平成25年度大垣市教育振興基本方針の施策の実施状況について
  - ① 学校教育分野
  - ② 社会教育（生涯学習）分野
  - ③ 青少年・家庭教育分野

## 5 会議録

開会 13:00

| 発言者     | 発言内容  |
|---------|---|
| 加藤 庶務課長 | 皆さん、こんにちは。本日は、大変、お忙しいところ、平成26年度大垣市教育振興基本方針評価委員会の第1回会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私、本日の司会を務めさせていただきます、大垣市教育委員会庶務課長の加藤でございます。よろしくお |

| 発言者     | 発言内容   |
|---------|--|
|         | 願いいたします。それでは、はじめに、平野委員長様よりご挨拶をお願いいたします。  |
| 平野 委員長  | 本日は、大変お忙しいところ、平成26年度の大垣市教育振興基本方針評価委員会の第1回会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。さて、大垣市教育委員会では、教育振興基本方針に基づき、6つの分野において振興計画を策定しています。本委員会では、この振興計画に基づいて、大垣市の教育の取り組みが着実に進むよう、毎年、実施状況を検証しています。本日の会議では、学校教育分野など3分野につきまして、昨年度の実施状況の点検、評価を行いますので、皆様方の忌憚のないご意見をお聞かせいただき、今後の取組に生かしていきたいと存じます。それでは、委員の皆さんのご協力をお願い申し上げ、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。 |
| 加藤 庶務課長 | ありがとうございました。次に、次第の3、「委員の紹介」に移らせていただきます。本年度より、学校教育分野から、小中学校長会の代表として、馬淵委員にご参加いただいておりますので、ご紹介させていただきます。<br>(馬淵委員自己紹介)   |
| 加藤 庶務課長 | ありがとうございました。次に、次第の4、「議題」に移らせていただきます。これよりの進行につきましては、平野委員長様にお願いいたします。  |
| 平野 委員長  | 議事に入ります前に、本日の会議につきましては、個人情報など非公開とする案件に該当するような事案がないことから、会議は公開とさせていただきます。それでは、これより、議事に入ります。はじめに、議題の(1)、「大垣市教育振興基本方針評価委員会設置要綱の一部改正について」、を事務局から説明をお願いいたします。  |
| 林 庶務課主幹 | 〈資料説明〉<br>資料No.2－大垣市教育振興基本方針評価委員会設置要綱の一部を改正する要綱  |
| 平野 委員長  | ただいま、資料のご説明をいただきましたが、これにつきまして、ご意見やご質問があればお願いいたします。ないようでしたら、次に、議題の(2)、「平成25年度大垣市教育振興基本方針の評価について」、を事務局から説明をお願いいたします。   |
| 林 庶務課主幹 | 〈資料説明〉   |

| 発言者     | 発言内容   |
|---------|--|
| 幹       | 資料No.3－平成25年度大垣市教育振興基本方針の評価について  |
| 平野 委員長  | ただいま、資料のご説明をいただきましたが、これにつきまして、ご意見やご質問があればお願いいたします。ないようでしたら、次に、議題の(3)、「平成25年度大垣市教育委員会の活動状況について」、を事務局から説明をお願いいたします。                          |
| 林 庶務課主幹 | 〈資料説明〉<br>資料No.4－平成25年度大垣市教育委員会の活動状況について   |
| 平野 委員長  | ただいま、資料のご説明をいただきましたが、これにつきまして、ご意見やご質問があればお願いいたします。   |
| 平野 委員長  | 繰越明許費とはどういう意味ですか。  |
| 加藤 庶務課長 | 年度内に支出を完了することのできない見込みのあるものについては、あらかじめ議会の議決を経て、翌年度に繰り越して使用することができるものです。   |
| 平野 委員長  | 他にありますか。ないようでしたら、次に、議題の(4)、「平成25年度大垣市教育振興基本方針の施策の実施状況について」、を事務局から説明をお願いいたします。  |
| 林 庶務課主幹 | 〈資料説明〉<br>資料No.4－平成25年度大垣市教育振興基本方針の施策の実施状況について<br>別添資料－大垣市の教育に関する市民アンケート調査報告書  |
| 平野 委員長  | ただいま、資料のご説明をいただきましたが、これにつきまして、ご意見やご質問があればお願いいたします。   |
| 松岡 副委員長 | 「分からない」「未回答」を全体から除いた場合の割合とありますが、この数値を評価シートに使ったのですか。これは昨年度の方法と変わったのですか。   |
| 加藤 庶務課長 | 昨年度の評価委員会で、アンケートの質問に対し、「分からない」という選択肢があったほうがよいという意見が多かったため、今回のアンケートでは、「分からない」という選択肢を追加し、正確な満足度を測りました。またこの数値を評価シートに使い、この方法については、昨年度と変更しています。 |
| 田中 委員   | 回収率は昨年度と同じですか。   |
| 加藤 庶務課長 | ほぼ同じです。  |

| 発言者         | 発言内容  |
|-------------|---|
| 平野 委員長      | 年齢が高いほうが、アンケートの回答率が高いですね。   |
| 田中 委員       | 学校にエアコンは入っていますか。  |
| 加藤 庶務課長     | 職員室、パソコン室などの特別教室には入っていますが、普通教室には入っていません。  |
| 平野 委員長      | 先日、安井小を訪問しましたが、日よけや、散水などで対策をしていました。   |
| 田中 委員       | 私も安井小を訪問しましたが、人数が増え続けているとのことでした。南小は減っており、いい方法がないかと思えます。安井小は中学校を自由に選べるそうですね。                                 |
| 平野 委員長      | 大垣市では、安井地区だけです。   |
| 平野 委員長      | それでは、さっそく、実施状況の評価に入りたいと存じます。はじめに、①の「学校教育分野」について、事務局から説明をお願いいたします。   |
| 清水 学校教育課長   | <資料説明><br>別添資料－大垣市教育振興基本方針評価シート（学校教育分野）   |
| 平野 委員長      | それでは、ご意見等がございましたら、ご発言をお願いいたします。   |
| 平野 委員長      | 教育相談は、子どもと親のどちらからのものですか。  |
| 高木 教育総合研究所長 | 保護者からの相談で、教育総合研究所への来所、電話、学校に赴いての相談になります。  |
| 平野 委員長      | 相談内容は、学校にも伝えますか。匿名でもよいですか。  |
| 高木 教育総合研究所長 | 保護者に学校に伝えてよいか確認し、学校と連携を図って解決してまいります。匿名であっても構いません。   |
| 平野 委員長      | 公務のスリム化とありますが、教員は働きすぎということも耳にします。   |
| 清水 学校教育課長   | 厚生労働省が残業時間月80時間をひとつの目安としており、学校においてもノー残業デーを実施するなど対策をしていますが、緊急の相談の対応など、残業はなかなか減少しません。                         |
| 馬淵 委員       | 平成22年から、教育委員会と校長会で、ノー残業デーの実施に取り組んでおります。私の学校では、毎週水曜日にノー残業デーを実施し、7時までに帰宅するよう指導、徹底しています。残業時間は、昨年と比較し、若干減っています。 |
| 平野 委員長      | 残業代という問題がありますが、いかがでしょう。   |
| 田中 委員       | 昔の感覚では教員の残業代という問題はなかったように思いますが、   |

| 発言者         | 発言内容   |
|-------------|--|
|             | 今は教員の仕事も大変です。企業では一定の残業時間を超えると、それに対する成果について指導があります。残業に関する調整の手当とは別に残業代も支払う必要があります。   |
| 松岡 副委員長     | 教員は残業という概念がはっきりしていないと思います。一方で、教員一人ひとりが日夜取り組む努力により、学校教育は成り立っており、そうした意識であるので、多くの教員は、残業代の関心は低いと思います。また、教育学部在籍の学生の親からは、教員の仕事量、質の面で、子どもを教員にさせたくないという意見もあります。  |
| 原 委員        | 地域人材活用人数が減っているのは、地域の方をお願いする機会が減ったのか、地域の方の担い手がいないのかどちらでしょうか。  |
| 清水 学校教育課長   | 地域人材を活用する総合学習の時間が減少していることが原因かと考えられます。  |
| 矢橋 委員       | 「だれもが研修」とありますが、今までの研修とはどう違いますか。  |
| 高木 教育総合研究所長 | 従来であれば、代表の教員が、学校外で研修を受け、そこで学んだ内容を、他の教員に伝えるというスタイルでしたが、「だれもが研修」は、講師が各学校に出向くことにより、学校で研修を受けることができ、全職員が受講することができるものです。その内容は、特別に支援を要する子に対する手助け、援助の方法、よりよい学級づくりのための方策などを専門的な講師を招き、学校の実態にあわせた研修を行うものです。 |
| 田中 委員       | 大垣市は学力テストの結果は公表していますか。   |
| 清水 学校教育課長   | 市全体の傾向は出していますが、詳細な数値は出していません。  |
| 山本 教育長      | 市の教育委員会の判断で、各学校の数値を公表できることになっていますが、今のところ大垣市では、公表しない方針です。小規模校のテスト結果は、個人情報に近いものであることや、学校に対する評価は、学力だけでなく、心、体の面など、多方面から評価していただきたい思いから公表はしていません。代わりに、学校の課題など、各学校が工夫して公表しているところです。                     |
| 平野 委員長      | 公表についてはいろいろなご意見があるかと思います。  |
| 田中 委員       | 成績のいい人、よくない人、皆が力をつけることが皆さんの望みだと思います。子どものネット環境に対する時間制限の問題はどうでしょう。   |

| 発言者         | 発言内容  |
|-------------|---|
| 清水 学校教育課長   | 市PTA連合会等と協議しながら、検討しております。   |
| 田中 委員       | 不登校の割合はどうか。   |
| 高木 教育総合研究所長 | 病気を除く、年間30日以上欠席した児童、生徒を不登校としていますが、小学校では100人に対して0.7人、中学校では100人に対して3.6人の出現状況です。   |
| 平野 委員長      | 不登校については、各小中学校、教育総合研究所でも対応しているのですか。   |
| 高木 教育総合研究所長 | 各分野で早期対応、未然防止に努めています。   |
| 松岡 副委員長     | 学級経営については、大学で講義、指導する時間はありませんが、現実には、教員にとって学級経営ができるかどうかは、大きな課題であります。学級経営研究委員会の具体的な内容、Q-U調査はどのように生かされているのかについて教えていただけますか。  |
| 高木 教育総合研究所長 | 学校経営研究委員会は、各小中学校の研究員により、円滑な人間関係を作り上げることなど、よりよい学級経営のための協議、研究をしており、昨年度には、学級経営の手引きを発行しました。Q-U調査は、子どもたちにアンケート調査を実施し、子どもの状況を4つに分類し、その結果を学級経営に活用していくものです。                     |
| 馬淵 委員       | 大垣市ではQ-U調査を2回実施しており、学級づくりについて、外部講師の研修を受け、若手、中堅がグループで研究を進めることにより、全体的な理解が深まっています。   |
| 松岡 副委員長     | Q-U調査は子どもを理解するひとつの手法であり、調査をしなくとも、まず学級担任である教員が自分の力で、子どもが4つの分類のうちどこにいるのか、どのように接すればいいかを、判断、理解する能力を養うことが大切です。調査の結果や、カウンセラーの診断を、教員は鵜呑みにするのではなく、調査結果はあくまでも参考として活用すべきであると思います。 |
| 高木 教育総合研究所長 | 基本は日常観察から児童の状況を理解していくことが大前提でありますので、我々も同様に考えています。  |
| 高橋 委員       | いろいろな方が連携をとって、様々な目で、子どもたちを見守っていくことが大切であると思います。  |
| 渡邊 委員       | 地域人材活用人数が減っているとありましたが、地域人材に地域のあ   |

| 発言者         | 発言内容  |
|-------------|---|
|             | いさつ運動の参加者も含まれるのですか。   |
| 清水 学校教育課長   | あいさつ運動、見守り隊などの参加者は含まれていません。   |
| 田中 委員       | 道徳教育は、日本人の心を育むものであり、もっと踏み込んだ教育ができないかと思いますが、現状はどうでしょうか。  |
| 清水 学校教育課長   | 以前までは、道徳の時間の一部に使用する「心のノート」がありましたが、今年度から、道徳の全授業に使える副読本が配られ、活用しています。座学だけでなく、体験により自分を見つめることが重要であることから、道徳の授業だけでなく、様々な場面で道徳教育を関連付け、実践的な教育をしています。   |
| 平野 委員長      | アンケートの中で、土曜日授業については、学力向上のためであり、大垣を知るといふ授業に替わってよいのかという意見がありますがいかがでしょうか。  |
| 山本 教育長      | 来年度から、月1回、年間10回、土曜日の午前3時間を土曜授業として実施する予定しています。土曜授業において実施するふるさと教育は、小学校1年生から中学校3年生までを対象に、年間15時間程度を予定しており、俳句、大垣の歴史などを学習し、ふるさとに対する誇り、愛着を育むことを目的としています。残りの15時間については、教科の学習となりますが、学力向上のために行うものではないと考えています。学力向上については、通常の授業で実践するものであり、別の方策で取り組んでいきます。 |
| 平野 委員長      | 学校教育の指標は、教師の自己評価と子どもの自己評価が対比されており、真剣に取り組まれていることが感じられます。それでは、総合評価についてはこれでよろしいですか。  |
| 各委員         | 異議なし  |
| 平野 委員長      | それでは、総合評価については、事務局案のようにさせていただきます。次に、②の「社会教育、生涯学習分野」について、事務局から説明をお願いいたします。   |
| 高木 市民活動推進課長 | 〈資料説明〉<br>別添資料－大垣市教育振興基本方針評価シート（社会教育（生涯学習）分野）   |
| 平野 委員長      | それでは、ご意見等がございましたら、ご発言をお願いいたします。   |
| 田中 委員       | 大垣市の主要な施策なので、すべてA評価となることを期待します。   |

| 発言者          | 発言内容   |
|--------------|--|
| 平野 委員長       | アンケートで、活動について、ホームページで紹介されているが、利用できないので、広報で情報提供していただきたいという意見もありました。先日の加藤登紀子さんのイベントは盛況のようでしたが、熟年式といわれるものですか。 |
| 高木 市民活動推進課長  | 「夏の集い」というイベントでかがやきライフタウンを推進するものです。熟年式は秋に65歳を対象に行います。   |
| 平野 委員長       | 市内の地区センター設置は完了したのですか。  |
| 小林 まちづくり推進課長 | 静里には地区センターはありませんが、西部研修センターを代替施設としています。今後どうしていくかは検討課題です。  |
| 平野 委員長       | 地区センターの運営は委託という形かと思いますが、館長は違いますよね。   |
| 小林 まちづくり推進課長 | 地区センターは地区の運営委員会に委託しており、館長も運営委員会の中で決めていただきます。   |
| 平野 委員長       | 地区センターの建物の管理は、市ですか、教育委員会ですか。   |
| 小林 まちづくり推進課長 | 指定管理者制度を導入しており、各地区の運営委員会が管理運営しています。  |
| 平野 委員長       | 地区センターが公民館の役割を果たすと聞きましたが。  |
| 小林 まちづくり推進課長 | 地区センターは、地元の活動、生涯学習などの様々な拠点施設の考え方があるかと思いますが、特に決めることなく、多くの利用があればと考えています。                                     |
| 平野 委員長       | ある地区センターでは、従来からある講座などの予約が一杯で、新規の方が利用しづらいことがあり、館長が指導力を発揮できればうまくいくような気がします。そうした体制をとることは難しいですか。               |
| 田中 委員        | 高齢の方だけで運営するのも難しい面があるかと思います。  |
| 小林 まちづくり推進課長 | 地区センターによっては、部屋に空きがなく、別の地区センターを利用してもらうこともあります。  |
| 田中 委員        | 地区センターは毎日利用があるのですか。  |
| 小林 まちづくり推進課長 | 北地区センターなどは毎日利用があります。   |
| 平野 委員長       | 利用者には高齢者が多く、高齢者が利用するには不便な施設もあり、施設整備についても課題があるかと思います。それでは、総合評価についてはこれでよろしいですか。                              |
| 各委員          | 異議なし   |

| 発言者           | 発言内容  |
|---------------|---|
| 平野 委員長        | それでは、総合評価については、事務局案のようにさせていただきます。次に、③の「青少年、家庭教育分野」について、事務局から説明をお願いいたします。  |
| 加藤 社会教育スポーツ課長 | 〈資料説明〉<br>別添資料－大垣市教育振興基本方針評価シート（青少年・家庭教育分野）   |
| 平野 委員長        | それでは、ご意見等がございましたら、ご発言をお願いいたします。   |
| 田中 委員         | 「家庭の日」の親子のふれあい実施率が低いので、高めるような施策を今後取り組む必要がありますね。   |
| 加藤 社会教育スポーツ課長 | 「家庭の日」の認知度を高め、多くの家庭で実践していただくため、大垣青少年育成推進委員会が作成しているチェックシートを、年度初めに小中学校、幼稚園、保育園において配布しています。  |
| 渡邊 委員         | 学校などの現場で、配布、チェック、回収のお願いを徹底しているところです。  |
| 平野 委員         | 大垣の地域のおじさん、おばさん運動は素晴らしいと思います。「家庭の日」については、低落している印象です。子どもが減っていることもあるかと思いますが、社会教育、学校教育、青少年との連携がないことも一因であると思います。一例として、川、溝掃除など、最初は親子で参加していたものが、次第に親だけになり、最終的に市に依頼することになり、「家庭の日」の意義がなくなっています。各分野が一体となって推進する必要があるかと思います。 |
| 加藤 社会教育スポーツ課長 | 溝掃除などは、明るい青少年都市市民会議が、年2回、「家庭の日」において、全市一斉クリーン活動の日として各自治会に呼びかけ、各自治会の状況に応じて実施していただいています。   |
| 矢橋 委員         | 「家庭の日」は今、掃除の日という印象で、私たちの地区では、小学生が1人しかおらず、大人だけの参加で、あまり親子のふれあいの日という印象はありません。親子のふれあいということを考えたら、掃除だけではなく、違う発想が必要ではないでしょうか。  |
| 原 委員          | 昨年度、実際には「家庭の日」にはできませんでしたが、「親子でのクラフト作り」を企画運営し、親子のふれあいがこういうものであると実感しました。しかし、参加する方は「家庭の日」を意識している印象はありませんでした。実際、親子のふれあいはよく行われているので、「家庭の日」の定義について考えてもよいのではないのでしょうか。  |

| 発言者           | 発言内容   |
|---------------|--|
| 加藤 社会教育スポーツ課長 | 「家庭の日」を第3日曜日にこだわらず、親子でふれあう日として広く捉えていただければよいかと思えます。   |
| 原 委員          | 広く捉えるのであれば、親子ふれあい実施率は高まるのではないのでしょうか。また、親子のふれあいを調べるチェックシートはどういうものなのでしょうか。   |
| 渡邊 委員         | 学校でチェックシートを配布しており、子どもがいない家庭には配布していません。PRが弱い部分もあります。クリーン活動も親子での参加を呼び掛けていますが、現実には浸透していないところもあります。  |
| 平野 委員長        | 「家庭の日」を学校で話題にすることはありますか。   |
| 清水 学校教育課長     | 教員も「家庭の日」は認識しているので、話題にはしています。  |
| 高橋 委員         | 掃除、花壇作り、ラジオ体操など、高齢者が中心で活動する姿がみられるように、子ども会が主体的に行う活動が少なくなっています。ジュニアリーダーズクラブの活動などを生かす場が少なくなっている点が気になります。  |
| 平野 委員長        | 子どもを誰が育てていくかは重要な問題であると思えます。子ども会、自治会、家庭教育などのうち、どこかの分野が、主導的に進める必要もありますし、各分野一体的に進める必要もあるかと思えます。ぜひ、そのあたりについて、今後の計画に盛り込んでいただきたい。                              |
| 山本 教育長        | 子ども会の自主的な活動については、毎年子ども会の研修会が行われていますが、以前までは、大人が活動を報告するという活動でしたが、子どもの主体的な学びを大切にする活動に変わってきています。   |
| 平野 委員長        | マンション、アパートなどの居住者が、大垣を第2のふるさとと感じ、子ども会、祭りなどに参加できるような風潮になるとよいです。  |
| 高橋 委員         | 小学校高学年、中学生、高校生の青少年自身が自主的に活動する能力をもつことが大事であり、そうした能力はジュニアリーダーズクラブなどを含め様々な場で養われるかと思えます。そうしたところで学んだ子どもたちが、各地域、学校などで自信をもって活動できるような風土をつくるのが、青少年育成の根幹ではないかと思えます。 |
| 加藤 社会教育スポーツ課長 | ジュニアリーダーにつきましては、高校生7人、中学生は12人で、さらに人数が増えるよう、育成活動の機会を増やしています。また、各子   |

| 発言者         | 発言内容  |
|-------------|---|
| 長           | ども会にジュニアリーダーの派遣要請を依頼し、ジュニアリーダーの活動の機会を増やすよう努めています。   |
| 松岡 副委員長     | 子どもの取り巻く環境は変化している中で、施策が昔ながらのものが多く、今の社会と合っていない部分もあるかと思います。子どもの遊び方が変わっている中で、ジュニアリーダーやども会の活動内容の見直しをしているが、あり方そのものを見直す時期にきているのかもしれない。ジュニアリーダーで活動している子と学校でのリーダーとは別であることも見受けられます。いずれにしても、地域で活動の中心になるような子を増やす必要がある中で、家庭や地域の教育力が低下したとはいえ、誰かが底上げを担わなければならない、学校がその役割を担うのは免れないことであると思います。一方で学校の負担が増えるという面もあり、難しい問題であると思います。 |
| 田中 委員       | 指導者が減ってきており、若いリーダーをどういう方法で育てていくかは難しい問題です。   |
| 平野 委員長      | かつては、青年団体などがリーダーとして活躍する時代であったが、今はそういう時代ではないです。社会全体、学校がその役割を担っていかなければならない時代なのかもしれません。  |
| 平野 委員長      | 携帯電話、スマホの問題について、学校、家庭でどう指導していいのでしょうか。指針などがあるのでしょうか。   |
| 清水 学校教育課長   | 所持率は年々上がっており、小学校で3割、中学校で5割が所持している現状です。そうした状況で、所持させないということはできませんので、子どもたちが主体的にルールを作り、それを守って、正しく使うことが大事であると考えています。また、保護者も携帯電話、スマホを持たせる責任を果たすよう求めています。  |
| 高木 教育総合研究所長 | 子どもたちが、インターネットの有用性と危険性、両方を学ぶ情報モラル教育を実施しており、教員についてもその指導方法の研修をしています。保護者からは、子どもの携帯、スマホ所持にどう接すればいいかを学びたいという声があるので、PTA、地域を対象に研修会を実施しています。  |
| 平野 委員長      | ネット上でのトラブルは、教員の目の届かないところで行われており、対応の大変さがうかがえます。  |
| 田中 委員       | 親が時間になると使わせないことも基本かだと思います。無関心ではいけません。学校だけでなく、家庭での教育も必要です。   |

| 発言者     | 発言内容  |
|---------|---|
| 平野 委員長  | それでは、総合評価についてはこれでよろしいですか。   |
| 各委員     | 異議なし  |
| 平野 委員長  | それでは、総合評価については、事務局案のようにさせていただきます。   |
| 平野 委員長  | それでは、時間もまいりましたので、本日の審議はここまでとさせていただきます。次回は、次の3分野について審議をしたいと存じます。これをもちまして、本日の評価委員会を終了いたします。   |
| 加藤 庶務課長 | <p data-bbox="411 640 608 674">&lt;次回開催&gt;</p> <p data-bbox="411 696 979 730">と き 平成26年7月30日（水）9:30～</p> <p data-bbox="411 752 735 786">ところ 教育委員会室</p> |